

## Ⅳ オートプシー・イメージング (Ai) におけるITの活用と運用

# 3. 児童虐待の早期発見・再発防止のための情報基盤

西田 佳史\*<sup>1</sup>/北村 光司\*<sup>1</sup>/山中 龍宏\*<sup>1,2</sup>

\*<sup>1</sup> 産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター \*<sup>2</sup> 緑園こどもクリニック

児童虐待相談件数は毎年増加し続けており、虐待に対する新たな取り組みが必要である。臨床現場では、虐待の判断が個人の経験や勘に任されているが、虐待の診断、また、児童相談所への報告は、臨床医にとって大変大きな負担となっている。オートプシー・イメージング (Ai) で画像診断を行っても、それだけで虐待であると確定診断することは非常に難しい。虐待の確定診断には、生育歴、家族歴、家庭環境などの周辺状況の把握、あざや熱傷痕などの身体所見、頭部CT、MRIなどの画像検査所見、保護者の状況説明などを総合的に判断して診断が行われる必要がある。現在、われわれは工学の新たな技術を使用して、虐待の新しい診断方法を開発しているのです、それらをまとめて報告する。

### 児童虐待の早期発見・再発防止のための情報基盤の必要性

近年、乳幼児が受ける虐待がきわめて大きな社会問題になっている。児童虐待相談の件数は年々増加しており、2011年度の相談件数は5万9000件以上に上っている(図1)。なぜ、これまで解決できなかったのだろうか？

筆者らは、虐待による傷害を早期発見したり、再発防止したりするための核となるデータ基盤が存在しておらず、科学的なアプローチがとれていないからだと考えている。どの分野においても、人間の能力は、科学(過去の人類の英知)をベースとして発揮されるべきもので、

経験だけがあって何らエビデンスがない状況では、素人と変わらないような判断力に陥ってしまう。そのため、現在でも、本来防げるはずの事故の対策をとらなかったり、早期発見できるはずの虐待を見逃すというケースが多発している。

特に、対象が子供の場合には、大人と異なり、自ら声を上げ社会運動を起こすこともできず、また、周囲の人に適切に状況を説明する表現力も限られるため、社会で子供を守る「社会システムの構築」がきわめて重要である。データ基盤を開発し、新たな情報の流れを創り出し、現在ある組織の機能を再定義した社会システムの構築こそが重要となる。

虐待は、日常的に繰り返され、死亡や後遺症に至るケースが多く、早期発見による適切な処置や再発防止が不可欠である。しかし、虐待による身体的傷害の多くは、不慮の傷害と見かけ上類似しており、虐待の早期発見は困難であることが多い。現在、虐待と不慮の傷害の判別法は、現場の実務家の経験や勘に基づいた判断のみであり、科学的な判断基準が存在しないことが、意図的な傷害の発見と対策を阻害する原因となっている。

### 児童虐待の早期発見・再発防止のための情報基盤の状況

#### 1. 概要

前節で述べた社会的ニーズに応えるための科学技術、およびそれを支える社会

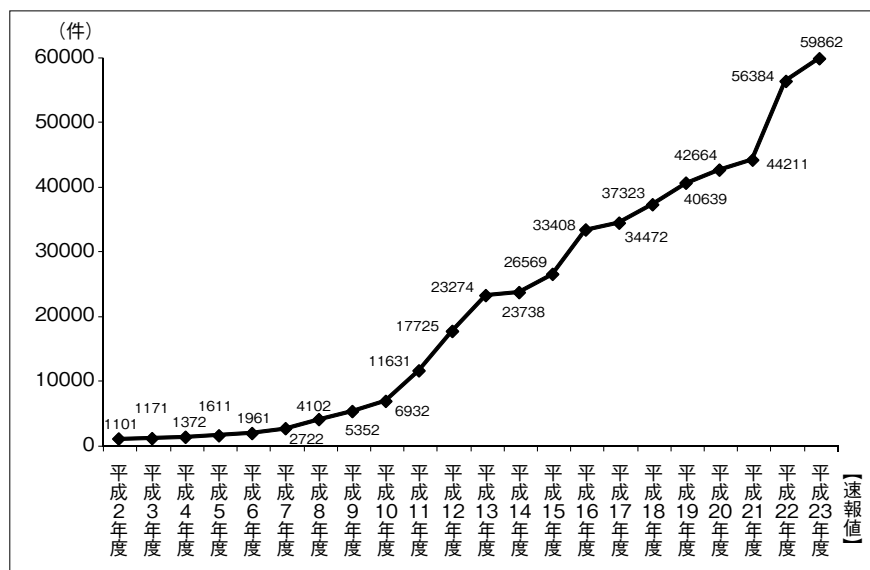


図1 児童相談所での児童虐待相談対応件数(2012年7月26日：厚生労働省)